

## カーボンフットプリント製品種別基準（CFP-PCR）

（認定 CFP-PCR 番号：PA-AO-04）

対象製品：ユニフォーム

2013年10月18日 認定

### カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム

※認定CFP-PCRの有効期限は認定日より5年間とする。

※このCFP-PCRに記載されている内容は、カーボンフットプリントコミュニケーションプログラムにおいて、関係事業者等を交えた議論の結果として、CFP-PCR改正の手続を経ることで適宜変更および修正することが可能である。

“ユニフォーム”  
Carbon Footprint of Products- Product Category Rule of  
“Uniform”

本文書は、一般社団法人産業環境管理協会が運営管理する「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム」(CFP プログラム)において、「工業製品(食料品以外)」を対象とした CFP の算定・宣言のルールについて定める。

CFP の算定・宣言を行おうとする事業者等は、本文書および「カーボンフットプリント算定・宣言に関する要求事項」に基づいて、CFP の算定・宣言を行う。

No.	項目	内容
1	適用範囲	この CFP-PCR は、CFP プログラムにおいて「ユニフォーム」を対象とする CFP 算定および CFP 宣言に関する規則、要求事項および指示事項である。 なお、対象製品の関係法令に抵触する内容については、法令順守を優先する。
2	対象とする製品種別の定義	
2-1	製品種別	この CFP-PCR で対象とする「ユニフォーム」とは、次の 2 要件を満たすものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、官公庁、およびその他団体等で着用されるビジネスユニフォーム、および学校で着用されるスクールユニフォームをいう。ただし、不織布製の製品など、使い捨て用途の衣服は含まない。</li> <li>・日本標準商品分類の衣服(履物および身の回り品を除く)(78)のうち、下着(781)、寝衣(783)、くつ下(785)、足袋(786)、手袋(788)、ならびに革製衣服(7814)、毛皮製品(7891)を除いたもの。</li> </ul>
2-2	機能	業務用、および学校用衣服の提供。
2-3	算定単位 (機能単位)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売単位(1 枚)とする。</li> <li>・この CFP-PCR では、ユニフォームの助数詞を「枚」に統一する。</li> <li>・製品の評価サイズは当該製品の標準体型用サイズとする。</li> </ul>
2-4	対象とする構成要素	次の要素を含むものとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニフォーム本体</li> <li>・包装・梱包資材:本体に付随する「ハンガー」「下げ札」「ビニール袋」等。</li> <li>・輸送資材:製品輸送に供する「段ボール箱」等。原材料輸送に供する輸送資材は含まない。</li> </ul>
3	引用規格および引用 CFP-PCR	引用する CFP-PCR は無い。
4	用語および定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ビジネスユニフォーム 企業や官公庁等で着用される業務用衣類の総称。ワーキング、オフィス、サービス等、業務用衣服全般をいう。</li> <li>② スクールユニフォーム 学校で生徒が着用する制服や体育衣料の総称。</li> <li>③ 表地 衣服の表側に用いる生地(織物、編み物)の総称。</li> <li>④ 裏地 衣服の裏側に用いる生地(織物、編み物)の総称。</li> <li>⑤ 芯地 衣服のしんに用いる生地(織物、編み物、不織布)の総称。</li> <li>⑥ なか綿</li> </ul>

		<p>防寒着等の中に入れる綿。</p> <p>⑦ 付属類 表地、裏地、芯地、中綿以外に衣服を構成する物品の総称。ボタン、ファスナー、肩パット、カン、インベル等をいう。このCFP-PCRでは、消費段階で外されるもの(例:下げ札)は付属類に含まず、「包装・梱包資材」に含むこととする。</p> <p>⑧ 包装・梱包資材 ハンガー、包装袋、個品箱等、製品に付随して消費者の手元まで届くが着用の際に除外されるものをいう。</p> <p>⑨ 輸送資材 段ボール箱等、製品の輸送や保管のため、いくつかの製品をまとめて梱包する時に使用される資材。</p> <p>⑩ 天然繊維 動植物などの自然物からとった繊維のこと。ほとんどが紡績を必要とする。</p> <p>⑪ 化学繊維 化学的プロセスで製造される繊維の総称。天然繊維を原料にする再生繊維、天然高分子を改質して製造する半合成繊維、純合成的に有機高分子化合物を製造する合成繊維、回収したPETボトルやポリエステル製品から製造する再生ポリエステル繊維等がある。</p> <p>⑫ 紡績 短い繊維からなる糸を作ること。</p> <p>⑬ 撚糸 単糸を一本あるいは二本以上合わせ、撚(より)をかけること</p> <p>⑭ 生機 織り機で織ったままの、染色などを施していない織物。</p> <p>⑮ フィラメント(F) 一本が長く連なった繊維。長繊維。</p> <p>⑯ ステープル(S) 短く切れた繊維。短繊維。</p>
5	製品システム(データの収集範囲)	
5-1	製品システム(データの収集範囲)	<p>次のライフサイクル段階を対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料調達段階</li> <li>・生産段階</li> <li>・流通段階</li> <li>・使用・維持管理段階</li> <li>・廃棄・リサイクル段階</li> </ul> <p>ただし、原材料調達段階と生産段階でデータを個別に収集することが困難なプロセスは、いずれかの段階にまとめて計上してもよい。</p>
5-2	カットオフ基準およびカットオフ対象	<p>【カットオフ対象とする段階、プロセスおよびフロー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品を生産する設備などの資本財の使用時以外の負荷</li> <li>・生産工場などの建設に係る負荷</li> <li>・複数年使用する資材の負荷</li> <li>・投入物を外部から調達する際に使用される容器包装や輸送資材の負荷</li> <li>・副資材のうち、マスク、軍手等の汎用的なものの負荷</li> <li>・事務部門や研究部門などの間接部門に係る負荷</li> <li>・妥当なシナリオのモデル化ができない場合の使用・維持管理段階に係る負荷</li> <li>・土地利用変化に係る負荷</li> <li>・商業洗濯時の包装・梱包資材に係る負荷</li> </ul>

		【カットオフ基準の特例】 特に規定しない。
5-3	ライフサイクルフロー図	附属書 A(規定)に一般的なライフサイクルフロー図を示す。CFP の算定時には、このライフサイクルフロー図から外れない範囲で算定製品ごとに詳細化したライフサイクルフロー図を作成しなければならない。
6	全段階に共通して適用する CFP 算定方法	
6-1	一次データの収集範囲	一次データの収集範囲は(7-2)、(8-2)、(9-2)、(10-2)および(11-2)に記載する。 なお、一次データの収集範囲外のデータ収集項目についても、必要に応じて一次データを収集してよい。
6-2	一次データの品質	特に規定しない。
6-3	一次データの収集方法	特に規定しない。
6-4	二次データの品質	特に規定しない。
6-5	二次データの収集方法	特に規定しない。
6-6	配分	【配分基準に関する規定】 特に規定しない。  【配分の回避に関する規定】 特に規定しない。  【配分の対象に関する規定】 特に規定しない。
6-7	シナリオ	【輸送に関するデータ収集】 ・輸送量(または燃料使用量)に関して一次データの収集が困難な場合、および各段階でシナリオを設定していない場合は、附属書 B(規定)のシナリオを使用しなければならない。  【廃棄物等の取扱い】 処理方法について一次データの収集が困難な場合、および各段階でシナリオを設定していない場合、紙類やプラスチックのように焼却できるものはすべて焼却処理とし、金属のように焼却できないものはすべて埋立処理として算定する。 なお、容器包装 CFP-PCR の対象となるものについては、容器包装 CFP-PCR の廃棄物等の処理のシナリオを適用してもよい。
6-8	その他	【シリーズ製品の取扱いに関する規定】 ・同一製品の色違いはシリーズ製品として扱い、代表的な製品の CFP を用いてもよい。 ・同一製品のサイズ違いは、算定した評価サイズの CO <sub>2</sub> 排出量を基準に各サイズの製品重量比例計算で算定することを基本とする。算定方法の詳細は附属書 E(各サイズの CO <sub>2</sub> 排出量算定方法)に定める。
7	原材料調達段階に適用する項目	
7-1	データ収集範囲に含まれるプロセス	① 「表地」「裏地」の製造および輸送に係るプロセス ② 「芯地・なか綿」の製造および輸送に係るプロセス ③ 「付属類」の製造及び輸送に係るプロセス ④ 「包装・梱包資材」の製造に係るプロセス なお、原材料においてリサイクル材料を使用する場合はリサイクル処理のプロセスを含む。
7-2	データ収集項目	次表に示すデータ項目を収集する。

① 「表地」「裏地」の製造および輸送に係るプロセス

活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名
「原材料(羊毛、コットン、合繊樹脂等)」糸製造プロセスへの原材料投入量	※1	「各原材料」製造原単位
「糸製造プロセス(紡糸、紡績、製糸等)」糸加工プロセス、もしくは織物・編物製造プロセスへの糸投入量	※1	「糸製造」加工原単位
「糸加工プロセス(撚糸、かさ高加工等)」織物・編物製造プロセスへの加工糸投入量	※1	「糸加工」加工原単位
「織物・編物製造プロセス」染色プロセスへの生機投入量	※1	「製織」「製編」加工原単位
「染色プロセス」(最終プロセス)製品生産サイトへの表地、裏地投入量	一次	「染色」加工原単位
「各下流サイトへの投入物輸送」原材料製造プロセス以降のサイト間輸送の各投入物輸送量	※1 ※2	「各輸送手段」輸送原単位
「表地」「裏地」の輸送製品生産サイトへの輸送量	一次	「各輸送手段」輸送原単位
廃棄物 廃水 ※3		

注) 上記は後染め生地の製造プロセスを記載しているが、先染め生地や、糸加工、織染め加工など、当該原材料の製造プロセスに応じて全てのプロセスを計上すること。

② 「芯地・なか綿」の製造および輸送に係るプロセス

活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名
「芯地」「なか綿」製品生産サイトへの投入量	一次	「各原材料」製造原単位
「芯地」「なか綿」製品生産サイトへの輸送量(または燃料使用量)	※2	「各輸送手段」輸送原単位

③ 「付属類」の製造および輸送に係るプロセス

活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名
「付属類」製品生産サイトへの投入量	一次	「各付属類」製造原単位
「付属類」製品生産サイトへの輸送量(または燃料使用量)	※2	「各輸送手段」輸送原単位

④ 「包装・梱包資材」の製造に係るプロセス

活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名
「包装・梱包資材」	一次	「各包装・梱包資

		製品生産サイトへの投入量	材」製造原単位															
		<p>※1 ユニフォームにおける表地、裏地は重要な原材料のため、当該原材料の製造に係る各プロセスを遡及計上する。しかし、これらの多くは社外から調達するケースが多く、かつ製造プロセスは分業化されている場合が多いため、その製造に係る詳細な一次データの収集が困難であることが少なくない。よってこれらの原材料は資源採掘や栽培プロセス以降、上流のプロセスから下流のプロセスに投入される投入物の活動量を収集し、これに当該プロセスの製造、もしくは加工に係る負荷(原単位)を乗じた結果の総和を当該原材料の負荷として計上することを可能とする。なお、各プロセスへの投入量は、各プロセスのロス率を勘案して計上すること(二次データ可能)。また、プロセス間の輸送に係る負荷も計上すること。</p> <p>※2 次の項目を一次データとして収集する。  [燃料法の場合]  ・輸送手段ごとの「燃料使用量」  [燃費法の場合]  ・輸送手段ごとの「燃費」  ・輸送手段ごとの「輸送距離」  [トンキロ法の場合]  ・輸送手段ごとの「輸送重量」</p> <p>※3 廃棄物等および廃水に関するデータ収集項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「廃棄物等」 「廃水」 処理方法ごとの排出量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各処理方法」 処理原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃棄物等」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)</td> <td>※1</td> <td>「各輸送手段」 輸送原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃棄物等のうちの化石資源由来成分」 焼却処理の量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各化石資源由来成分」 燃焼原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃棄物等のうち有機物成分」 埋立処理の量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各有機物成分」 嫌気性分解原単位</td> </tr> </tbody> </table>		活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「廃棄物等」 「廃水」 処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 処理原単位	「廃棄物等」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)	※1	「各輸送手段」 輸送原単位	「廃棄物等のうちの化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次 または シナリオ	「各化石資源由来成分」 燃焼原単位	「廃棄物等のうち有機物成分」 埋立処理の量	一次 または シナリオ	「各有機物成分」 嫌気性分解原単位
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																
「廃棄物等」 「廃水」 処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 処理原単位																
「廃棄物等」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)	※1	「各輸送手段」 輸送原単位																
「廃棄物等のうちの化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次 または シナリオ	「各化石資源由来成分」 燃焼原単位																
「廃棄物等のうち有機物成分」 埋立処理の量	一次 または シナリオ	「各有機物成分」 嫌気性分解原単位																
7-3	一次データの収集方法および収集条件	特に規定しない。																
7-4	シナリオ	特に規定しない。																
7-5	その他	投入物としてリサイクル材・リユース品を使用する場合、リサイクル材・リユース品の再生段階の CO <sub>2</sub> 排出量、およびその輸送に係る CO <sub>2</sub> 排出量は直接影響として計上する。																
8	生産段階に適用する項目																	
8-1	データ収集範囲に含まれるプロセス	①本体の生産プロセス ②裁断屑の処理プロセス ③サイト間輸送プロセス ④輸送資材の製造に係るプロセス																

8-2	データ収集項目	<p>次表に示すデータ項目を収集する。</p> <p>① 「本体」の生産(延反、裁断、縫製、特殊加工、検品、出荷等)プロセス</p> <table border="1" data-bbox="571 230 1442 660"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「水」 「燃料」 「電力」 製品生産プロセスへの投入量</td> <td>一次</td> <td>「水」 「燃料」 「電力」 製造と供給および使用原単位</td> </tr> <tr> <td colspan="3">廃棄物 廃水 ※1</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 「裁断屑」の処理プロセス</p> <table border="1" data-bbox="571 736 1442 1093"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「裁断屑」 表地、裏地、芯地・中綿の裁断屑の処理方法ごとの排出量</td> <td>一次</td> <td>「各処理方法」 処理原単位</td> </tr> <tr> <td>「裁断屑」 各処理施設への輸送量</td> <td>※1</td> <td>「各輸送手段」 輸送原単位</td> </tr> <tr> <td>「裁断屑のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量</td> <td>一次</td> <td>「各化石資源由来成分焼却」原単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ サイト間輸送プロセス</p> <table border="1" data-bbox="571 1169 1442 1328"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「輸送物」 各サイト間の輸送量(または燃料使用量)</td> <td>※2</td> <td>「各輸送手段」 輸送原単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ 輸送資材の製造に係るプロセス</p> <table border="1" data-bbox="571 1404 1442 1682"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「輸送資材」 製品生産サイトへの投入量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各輸送資材」 製造原単位</td> </tr> <tr> <td colspan="3">廃棄物等 ※1</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【留意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「包装梱包資材」の供給に係る CO2 排出量は原材料調達段階で計上するため生産段階のデータ収集項目から除外する。</li> <li>・生産に係るプロセスの一部を他生産サイトで施す場合(例:プリント加工)、当該サイトの生産に係るデータも本工場同様に収集すること。</li> </ul> <p>※1 廃棄物等および廃水については、7-2 に順ずる。  ※2 輸送量(または燃料使用量)については、(7-2) に準ずる。</p>	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「水」 「燃料」 「電力」 製品生産プロセスへの投入量	一次	「水」 「燃料」 「電力」 製造と供給および使用原単位	廃棄物 廃水 ※1			活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「裁断屑」 表地、裏地、芯地・中綿の裁断屑の処理方法ごとの排出量	一次	「各処理方法」 処理原単位	「裁断屑」 各処理施設への輸送量	※1	「各輸送手段」 輸送原単位	「裁断屑のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次	「各化石資源由来成分焼却」原単位	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「輸送物」 各サイト間の輸送量(または燃料使用量)	※2	「各輸送手段」 輸送原単位	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「輸送資材」 製品生産サイトへの投入量	一次 または シナリオ	「各輸送資材」 製造原単位	廃棄物等 ※1		
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																																				
「水」 「燃料」 「電力」 製品生産プロセスへの投入量	一次	「水」 「燃料」 「電力」 製造と供給および使用原単位																																				
廃棄物 廃水 ※1																																						
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																																				
「裁断屑」 表地、裏地、芯地・中綿の裁断屑の処理方法ごとの排出量	一次	「各処理方法」 処理原単位																																				
「裁断屑」 各処理施設への輸送量	※1	「各輸送手段」 輸送原単位																																				
「裁断屑のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次	「各化石資源由来成分焼却」原単位																																				
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																																				
「輸送物」 各サイト間の輸送量(または燃料使用量)	※2	「各輸送手段」 輸送原単位																																				
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																																				
「輸送資材」 製品生産サイトへの投入量	一次 または シナリオ	「各輸送資材」 製造原単位																																				
廃棄物等 ※1																																						

		<p>【配分のために収集する一次データ収集項目】</p> <p>・「本体」の生産量</p>																								
8-3	一次データの収集方法 および収集条件	特に規定しない。																								
8-4	シナリオ	特に規定しない。																								
8-5	その他	特に規定しない。																								
9	流通段階に適用する項目																									
9-1	データ収集範囲に含まれるプロセス	<p>①製品の輸送プロセス 生産サイトからユーザー（企業、官公庁、学校等）までの輸送プロセス。</p> <p>②製品の保管プロセス 生産サイトからユーザーに届くまでに倉庫保管を伴う場合（例：備蓄販売品）の保管プロセス。倉庫で積替保管を伴う場合は、廃輸送資材の廃棄に係るプロセス、および新たに投入する輸送資材の製造および輸送に係るプロセス。</p>																								
9-2	データ収集項目	<p>次表に示すデータ項目を収集する。</p> <p>① 「製品」の輸送プロセス</p> <table border="1" data-bbox="571 857 1444 1055"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「製品（ユニフォーム本体、包装梱包資材、輸送資材）」 輸送量（または燃料使用量）</td> <td>※1</td> <td>「輸送手段」 輸送原単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 「製品」の保管プロセス</p> <table border="1" data-bbox="571 1133 1444 1839"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「水」 「燃料」 「電力」 保管プロセスへの投入量</td> <td>一次</td> <td>「水」 「燃料」 「電力」 製造と供給および使用原単位</td> </tr> <tr> <td>「輸送資材」 保管プロセスへの投入量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各輸送資材」 製造原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃輸送資材」 輸送資材の処理方法ごとの排出量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各処理方法」 処理原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃輸送資材」 各処理施設への輸送量</td> <td>※1</td> <td>「各輸送手段」 輸送原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃輸送資材のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量</td> <td>一次</td> <td>「各化石資源由来成分焼却」 原単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 輸送量（または燃料使用量）については、(7-2)に順ずる。</p>	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「製品（ユニフォーム本体、包装梱包資材、輸送資材）」 輸送量（または燃料使用量）	※1	「輸送手段」 輸送原単位	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「水」 「燃料」 「電力」 保管プロセスへの投入量	一次	「水」 「燃料」 「電力」 製造と供給および使用原単位	「輸送資材」 保管プロセスへの投入量	一次 または シナリオ	「各輸送資材」 製造原単位	「廃輸送資材」 輸送資材の処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 処理原単位	「廃輸送資材」 各処理施設への輸送量	※1	「各輸送手段」 輸送原単位	「廃輸送資材のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次	「各化石資源由来成分焼却」 原単位
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																								
「製品（ユニフォーム本体、包装梱包資材、輸送資材）」 輸送量（または燃料使用量）	※1	「輸送手段」 輸送原単位																								
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																								
「水」 「燃料」 「電力」 保管プロセスへの投入量	一次	「水」 「燃料」 「電力」 製造と供給および使用原単位																								
「輸送資材」 保管プロセスへの投入量	一次 または シナリオ	「各輸送資材」 製造原単位																								
「廃輸送資材」 輸送資材の処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 処理原単位																								
「廃輸送資材」 各処理施設への輸送量	※1	「各輸送手段」 輸送原単位																								
「廃輸送資材のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次	「各化石資源由来成分焼却」 原単位																								
9-3	一次データの収集方法 および収集条件	特に規定しない。																								
9-4	シナリオ	特に規定しない。																								

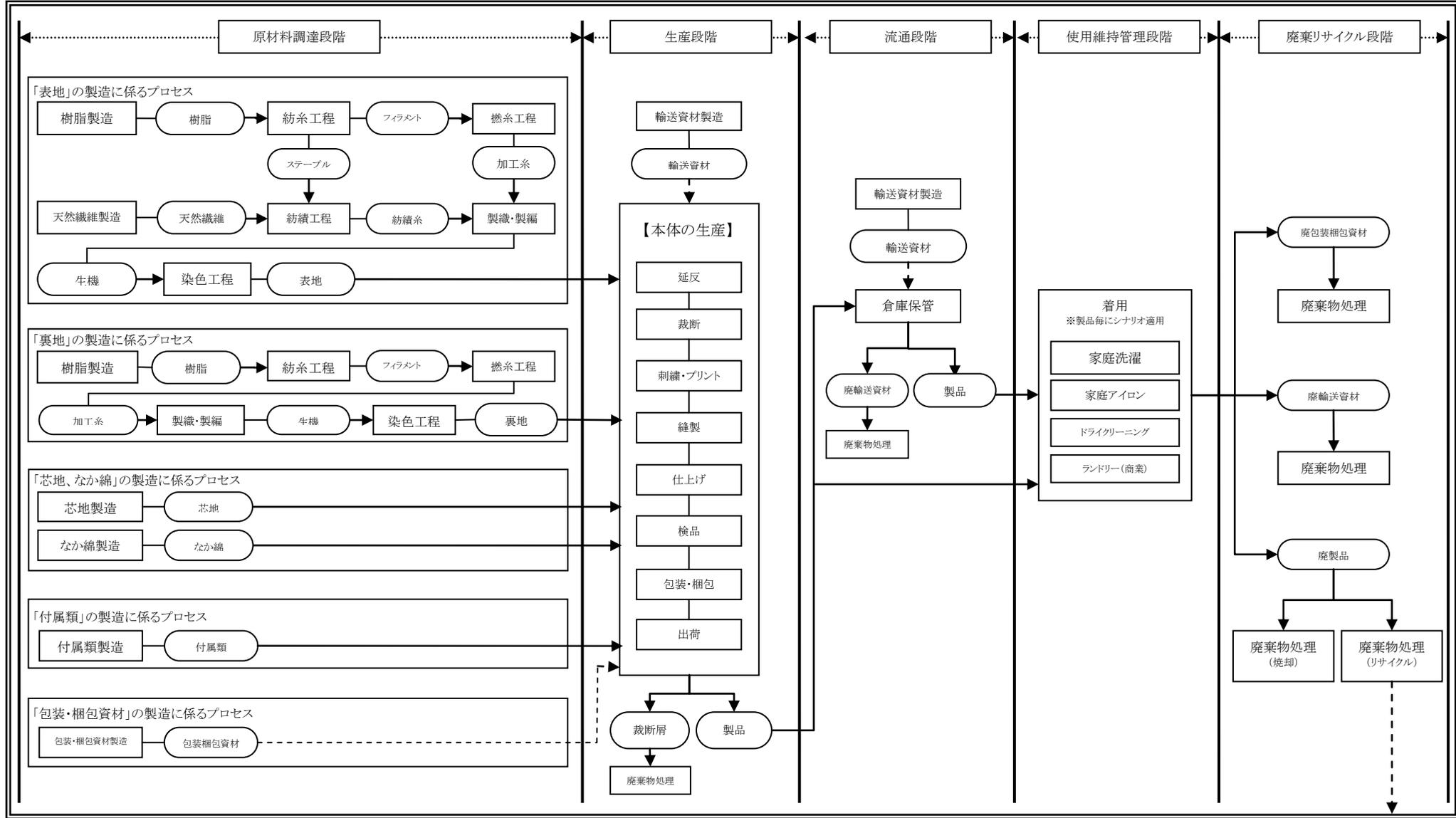
9-5	その他	特に規定しない。																								
10	使用・維持管理段階に適用する項目																									
10-1	データ収集範囲に含まれるプロセス	①ドライクリーニングに係るプロセス。 ②ランドリー(商業洗濯)に係るプロセス。 ③家庭洗濯に係るプロセス。 ④アイロン掛けに係るプロセス(家庭洗濯)。																								
10-2	データ収集項目	<p>次表に示すデータ項目を収集する。</p> <p>① ドライクリーニングに係るプロセス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ユニフォーム本体重量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>附属書 C(規定) 参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>② ランドリー(商業洗濯)に係るプロセス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ユニフォーム本体重量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>附属書 C(規定) 参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 家庭洗濯に係るプロセス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ユニフォーム本体重量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>附属書 C(規定) 参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ アイロン掛けに係るプロセス(家庭)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表地使用面積</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>附属書 C(規定) 参照</td> </tr> </tbody> </table>	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	ユニフォーム本体重量	一次 または シナリオ	附属書 C(規定) 参照	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	ユニフォーム本体重量	一次 または シナリオ	附属書 C(規定) 参照	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	ユニフォーム本体重量	一次 または シナリオ	附属書 C(規定) 参照	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	表地使用面積	一次 または シナリオ	附属書 C(規定) 参照
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																								
ユニフォーム本体重量	一次 または シナリオ	附属書 C(規定) 参照																								
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																								
ユニフォーム本体重量	一次 または シナリオ	附属書 C(規定) 参照																								
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																								
ユニフォーム本体重量	一次 または シナリオ	附属書 C(規定) 参照																								
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																								
表地使用面積	一次 または シナリオ	附属書 C(規定) 参照																								
10-3	一次データの収集方法および収集条件	特に規定しない。																								
10-4	シナリオ	<p>ユニフォーム本体の特性に合わせ、①洗濯回数 ②メンテナンス方法からシナリオを選択し適用する。</p> <p>①洗濯回数シナリオ ユニフォームの種類別に洗濯回数のシナリオを定める。 重衣料:20回、軽衣料:50回、作業服・体育衣料:100回</p> <p>②メンテナンスシナリオ 3種類の洗濯手法モデルと1種類のアイロン掛けモデルを組み合わせ、次の a)~d)の4種類のメンテナンスシナリオを定める。</p>																								

		a) ドライクリーニング b) ランドリー(商業洗濯) c) 家庭洗濯(アイロン有) d) 家庭洗濯(アイロン無)  詳細は、附属書 C(規定)を参照すること。																																	
10-5	その他	特に規定しない。																																	
11	廃棄・リサイクル段階に適用する項目																																		
11-1	データ収集範囲に含まれるプロセス	①「使用済み製品」の廃棄・リサイクルプロセス ②「廃包装・梱包資材」「廃輸送資材」の廃棄・リサイクルプロセス																																	
11-2	データ収集項目	次表に示すデータ項目を収集する。  ① 「使用済み製品」の廃棄・リサイクルプロセス <table border="1" data-bbox="571 622 1444 1066"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「使用済み製品」 処理方法ごとの排出量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各処理方法」 原単位</td> </tr> <tr> <td>「使用済み製品」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)</td> <td>※1</td> <td>「各輸送手段」 原単位</td> </tr> <tr> <td>「使用済み製品のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各化石資源由来成分焼却」 原単位</td> </tr> </tbody> </table> ② 「廃包装・梱包資材」の廃棄・リサイクルプロセス <table border="1" data-bbox="571 1144 1444 1588"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「廃包装・梱包資材」 処理方法ごとの排出量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各処理方法」 処理原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃包装・梱包資材」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)</td> <td>※1</td> <td>「各輸送手段」 原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃包装・梱包資材のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各化石資源由来成分焼却」 原単位</td> </tr> </tbody> </table> ③ 「廃輸送資材」の廃棄・リサイクルプロセス <table border="1" data-bbox="571 1666 1444 1980"> <thead> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「廃輸送資材」 処理方法ごとの排出量</td> <td>一次 または シナリオ</td> <td>「各処理方法」 処理原単位</td> </tr> <tr> <td>「廃輸送資材」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)</td> <td>※1</td> <td>「各輸送手段」 原単位</td> </tr> </tbody> </table>	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「使用済み製品」 処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 原単位	「使用済み製品」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)	※1	「各輸送手段」 原単位	「使用済み製品のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次 または シナリオ	「各化石資源由来成分焼却」 原単位	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「廃包装・梱包資材」 処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 処理原単位	「廃包装・梱包資材」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)	※1	「各輸送手段」 原単位	「廃包装・梱包資材のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次 または シナリオ	「各化石資源由来成分焼却」 原単位	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「廃輸送資材」 処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 処理原単位	「廃輸送資材」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)	※1	「各輸送手段」 原単位
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																																	
「使用済み製品」 処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 原単位																																	
「使用済み製品」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)	※1	「各輸送手段」 原単位																																	
「使用済み製品のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次 または シナリオ	「各化石資源由来成分焼却」 原単位																																	
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																																	
「廃包装・梱包資材」 処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 処理原単位																																	
「廃包装・梱包資材」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)	※1	「各輸送手段」 原単位																																	
「廃包装・梱包資材のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量	一次 または シナリオ	「各化石資源由来成分焼却」 原単位																																	
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																																	
「廃輸送資材」 処理方法ごとの排出量	一次 または シナリオ	「各処理方法」 処理原単位																																	
「廃輸送資材」 各処理施設への輸送量(または燃料使用量)	※1	「各輸送手段」 原単位																																	

		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「廃輸送資材のうち化石資源由来成分」 焼却処理の量 </div>	一次 または シナリオ	「各化石資源由来成分焼却」 原単位
		※1 輸送量(または燃料使用量)については、(7-2)に順ずる。		
11-3	一次データの収集方法 および収集条件	特に規定しない。		
11-4	シナリオ	<p><b>【廃棄物の処理方法に関する規定】</b>  廃棄物の処理方法について一次データが収集出来ない場合は、次のシナリオを使用してもよい。</p> <p>①ユニフォーム本体  ビジネスユニフォーム:産業廃棄物とし 100%焼却処分とする。  スクールユニフォーム:一般廃棄物とし 100%焼却処分とする。</p> <p>注 1:リサイクル処理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル処理の評価には、リサイクルの準備処理を行うサイトまでの輸送プロセス、およびリサイクルの準備処理(例:破碎処理)を含むこと。</li> <li>・廃棄・リサイクル段階(下流プロセス)でリサイクルの間接影響を考慮する場合は追加表示とするため、本表示のデータと区分して扱う。</li> <li>・製品システムに代替システムを含めない場合における代替システムの控除分のCO<sub>2</sub>排出量を明確にする。</li> </ul> <p>③ 「廃包装・梱包資材」「廃輸送資材」  ビジネスユニフォームの当該廃棄物は事業者向け、スクールユニフォームの当該廃棄物は消費者向けに供給される廃棄物として算定すること。</p>		
11-5	その他	<p><b>【リサイクルの効果】</b>  使用済み製品のリサイクルを評価する場合、確実なリサイクルの実行及び法令遵守を担保することを目的に、CFP申請事業者自らが廃棄物処理に関わる業の許可を取得している、若しくは当該プロセスに関わる第三者が同様の業の許可を有している場合は、その適用の妥当性の検証を受け、法令遵守及び実行性を担保出来る場合のみ当該プロセスの適用を可能とする。</p> <p>リサイクルを実施する場合は、オープン/クローズに関わらず申請各社がシナリオを設定する。シナリオには下記の事項を定めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄・リサイクル段階(下流工程)でリサイクルの間接影響を考慮する場合は、追加表示とするため、本表示のデータと区分して扱う</li> <li>・廃棄・リサイクルについて、その方法及び処理時のエネルギー消費量や廃棄・リサイクル量等のデータ収集方法を明確にする(例:機器や設備から直接計測する方法、処理量全体から当該商品の処理に配分する方法 等)</li> <li>・同一建屋内で複数の物品の中から対象となる物品の廃棄・リサイクル処理時のエネルギー消費量等を配分する場合は、その配分方法を具体的に設定する(例:敷地面積(照明、空調)、容積・重量(処理工程) 等)</li> <li>・廃棄物の輸送形態及び輸送時のエネルギー消費量のデータ収集方法を明確にする(例:燃費を直接計測する方法(燃費法)、輸送距離・積載率等から燃費を計測する方法(トンキロ法) 等)</li> <li>・代替される新規材料の製造に伴うGHG排出量を明確にする</li> </ul>		

		<p>なお、オープン／クローズに関わらず、申請各社が輸送モデルを策定し、一次データを収集することが望ましいが、附属書 C.4「廃棄物の輸送」のシナリオを使用してもよい。なお、リサイクルに関わる回収業務の実施の際には、実施事業者が輸送について業の許可を取得していること。</p>
12	CFP 宣言方法	
12-1	追加情報	<p><b>【数値ありマークの場合の必須表示内容の規定】</b>          使用・維持管理段階の算定方法(シナリオ)          ・洗濯回数 例)20 回          ・洗濯手法 例)家庭洗濯(アイロン有)</p> <p><b>【推奨表示事項】</b>          ・リサイクル材の使用や使用済み製品をリサイクルする場合等、製品システムに代替システムを含めない場合の代替システムの控除分の CO<sub>2</sub> 排出量。</p>
12-2	登録情報	<p><b>【必須表示内容の規定】</b>          ①使用・維持管理段階の算定方法(シナリオ)。          ・洗濯回数 例)20 回          ・洗濯手法 例)家庭洗濯(アイロン有)          ②各サイズの CO<sub>2</sub> 排出量          各サイズの算定方法は附属書 D(規定)を参照すること。</p>
12-3	その他	特に規定しない。

附属書 A：ライフサイクルフロー図（規定）



※全てのエネルギーおよび水の供給と使用に係るプロセスはフロー図から省略

※このフロー図は工業製品のライフサイクルの概要を示した。特定の製品の CFP 算定にあたっては、不要なプロセスの省略、必要なプロセスの追加等、実際に利用しているプロセスに沿って算定すること

リサイクル  
の  
成果物

附属書 B：輸送シナリオ（規定）

一次データが得られない場合の輸送シナリオを次に示す。

B1. 輸送距離

- ・ 市内もしくは近隣市間に閉じることが確実な輸送の場合：50 km（例：一般廃棄物輸送）
- ・ 県内に閉じることが確実な輸送の場合：100 km（例：産業廃棄物輸送）
- ・ 県間輸送の可能性のある輸送の場合：500 km
- ・ 特定地域に限定されない場合（国内）：1,000 km（例：不特定多数への既製品販売）
- ・ 海外における陸送距離：500 km
- ・ 港→港：港間の航行距離

B2. 輸送手段および積載率

ライフサイクル段階		設定シナリオ
原材料調達段階 原材料調達輸送	① 生産地が海外の場合	a) 生産サイト→原産国の港 ＜輸送距離＞500 km ＜輸送手段＞10トントラック ＜積載率＞50%
		b) 生産国の港→国内の港 ＜輸送距離＞港間の航行距離 ＜輸送手段＞コンテナ船(4,000TEU 以下)
		c) 国内の港→納入先 ＜輸送距離＞500 km ＜輸送手段＞10トントラック ＜積載率＞50%
	② 生産地が国内の場合	a) 生産サイト→納入先 ＜輸送距離＞500km ＜輸送手段＞10トントラック ＜積載率＞50%
生産段階 サイト間輸送 副資材調達輸送 廃棄物輸送	サイト間輸送	＜輸送手段＞2トントラック ＜積載率＞58%
	副資材調達輸送	原材料調達段階と同じ
	廃棄物(裁断屑)輸送	＜輸送距離＞100 km ＜輸送手段＞4トントラック ＜積載率＞50%
流通段階 製品輸送 廃棄物輸送	① 生産地が海外の場合	b) 生産サイト→原産国の港 ＜輸送距離＞500 km ＜輸送手段＞4トントラック ＜積載率＞25%
		b) 生産国の港→国内の港 ＜輸送距離＞港間の航行距離 ＜輸送手段＞コンテナ船(4,000TEU 以下)
		c) 国内の港→納入先もしくは保管倉庫 ＜輸送距離＞500 km ＜輸送手段＞4トントラック ＜積載率＞25%
		d) 保管倉庫→納入先 ＜輸送距離＞500km ＜輸送手段＞4トントラック ＜積載率＞25%
	② 生産地が国内の場合	c) 生産サイト→納入先もしくは保管先 ＜輸送距離＞500 km ＜輸送手段＞4トントラック ＜積載率＞25%

		b) 保管倉庫→納入先 < 輸送距離 > 500 km < 輸送手段 > 4トントラック < 積載率 > 25%
	廃棄物輸送	< 輸送距離 > 50 km < 輸送手段 > 10トントラック < 積載率 > 50%
廃棄・リサイクル段階	廃棄物輸送	① 産業廃棄物の焼却、埋立処分に伴う輸送 < 輸送距離 > 100 km < 輸送手段 > 4トントラック < 積載率 > 50%
		② 一般廃棄物の焼却に伴う輸送 < 輸送距離 > 50 km < 輸送手段 > 4トントラック < 積載率 > 50%
		③ 廃棄物のリサイクル処分に伴う輸送 < 輸送距離 > 500km < 輸送手段 > 4トントラック < 積載率 > 50%

## 附属書 C：使用・維持管理段階のシナリオ（規定）

ユニフォームの洗濯回数や洗濯手法、またアイロン掛けの有無などは様々なケースが想定されるため、洗濯回数は C.1、洗濯手法別 1 回あたりの CO<sub>2</sub> 排出量は C.2、家庭でアイロン掛けをする場合の 1 回あたりの CO<sub>2</sub> 排出量は C.3 のシナリオを適用すること。なお、検証時に適用するシナリオの妥当性を示すこと。

・使用・維持管理段階の CO<sub>2</sub> 排出量 = C.1 × (C.2 + C.3)

### C.1 洗濯回数について

表 1 に定める 3 つの製品群に分け、各製品群の洗濯回数シナリオを設定する。

製品群	洗濯回数
重衣料 ※1	20
軽衣料 ※2	50
作業服・体育衣料 ※3	100

表 1-製品群毎の洗濯回数シナリオ

#### ※1 重衣料

ジャケット、ブレザー、ベスト、スカート、キュロット、パンツ、コート、カーディガン、ワンピース、セーラー服、詰襟等

・洗濯回数設定根拠：0.5 回/月 × 36 ヶ月 ≒ 20 回

#### ※2 軽衣料

ブラウス、シャツ、スモック、オーバーブラウス、ポロシャツ、カットソー等

・洗濯回数設定根拠：4 回/月 × 12 ヶ月 ≒ 50 回

#### ※3 作業服・体育衣料

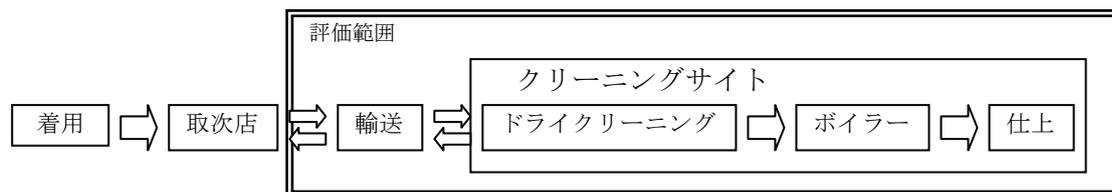
ブルゾン、パンツ、スカート、キュロット、つなぎ服、エプロン、前掛け、体育衣料(ジャージ類)等

・洗濯回数設定根拠：8 回/月 × 12 ヶ月 ≒ 100 回

### C.2 洗濯手法モデル

洗濯手法 1～3 を設定する。対象製品に適合する洗濯手法を選択し、手法別の算定式に対象製品の値を代入して洗濯 1 回あたりの CO<sub>2</sub> 排出量を算定すること。

#### <洗濯手法 1. ドライクリーニング>



#### 評価範囲について

-輸送:トラック輸送(2 t)、輸送距離 50 km

-ドライクリーニング:n-パラフィンを主成分とする石油系溶剤、洗剤、電力は仕上プロセスに含める。

-ボイラー:工業用水、燃焼・都市ガス

-仕上:工場内の全電力はこのプロセスに計上することとする。

-着用者は近隣の取次店へ洗濯物を持っていくことを想定しているため取次店への輸送プロセスは評価対象外とする。

また取次店の環境負荷は取次店の規模により大きく変化するため評価対象外とする。

-ドライクリーニングにはアイロン掛けのプロセスを含む。

評価方法

ドライクリーニングのプロセスは物理量(重量)依存性の高いプロセスのため重量比例按分することとする。

・ドライクリーニング 1 回あたりの CO<sub>2</sub> 排出量算定式

$$y(\text{CO}_2 \text{ 排出量:kg-CO}_2) = 0.085 \times \chi(\text{評価製品重量:kg}) + 0.1$$

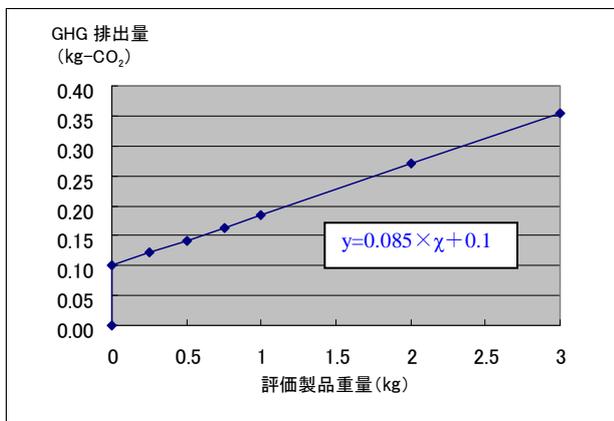
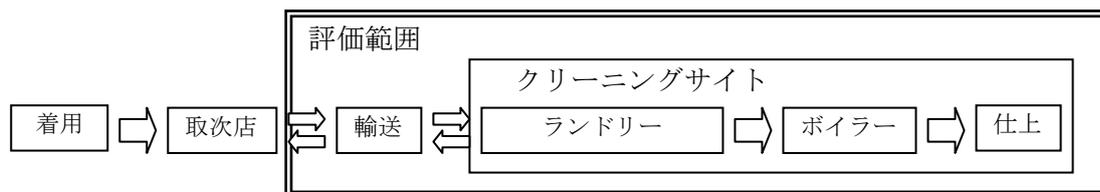


図 1-ドライクリーニング 1 回の GHG 排出量

評価製品重量(kg)	GHG 排出量(kg-CO <sub>2</sub> )/洗濯 1 回
0	0
0.25	0.121
0.5	0.143
0.75	0.164
1	0.185
2	0.27
3	0.355

表 2-ドライクリーニング 1 回の GHG 排出量

<洗濯手法 2. ランドリー(商業洗濯)>



評価範囲について

- 輸送:トラック輸送(2 t)、輸送距離 50 km
- ランドリー:工業用水、ランドリー用洗剤、助剤(珪酸ソーダ、ソーダ灰)排水処理、電力は仕上プロセスに含める。
- ボイラー:工業用水、燃焼・都市ガス
- 仕上:工場内の全電力はこのプロセスに計上する。
- 着用者は近隣の取次店へ洗濯物を持っていくことを想定しているため取次店への輸送プロセスは評価対象外とする。  
また取次店の環境負荷は取次店の規模により大きく変化するため評価対象外とする。
- ランドリーにはアイロン掛けのプロセスを含む。

評価方法

ランドリーのプロセスは物理量(重量)依存性の高いプロセスのため重量比例案分することとする。

・ランドリー(商業洗濯) 1 回あたりの CO<sub>2</sub> 排出量算定式

$$y(\text{CO}_2 \text{ 排出量:kg-CO}_2) = 0.15 \times \chi(\text{評価製品重量:kg}) + 0.38$$

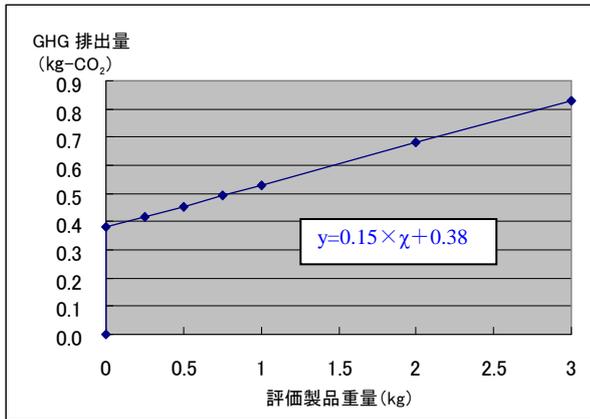
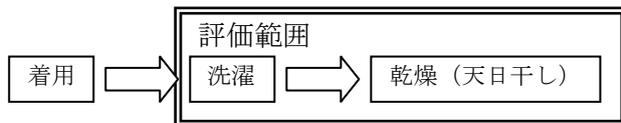


図 2-ランドリー1回のGHG 排出量

評価製品重量 (kg)	GHG 排出量 (kg- CO <sub>2</sub> ) /洗濯 1 回
0	0
0.25	0.42
0.5	0.46
0.75	0.49
1	0.53
2	0.68
3	0.83

表 3-ランドリー1回のGHG 排出量

<洗濯手法 3. 家庭洗濯>



評価範囲について

- 洗濯: 洗剤、水、電力、下水処理
- 乾燥(天日干し): 自然乾燥用のハンガーは含めない。
- 家庭洗濯では自宅での洗濯を想定しているため輸送は発生しない。
- 洗濯プロセスの洗濯条件は、洗濯機はパルセータ式洗濯機(縦型洗濯機)、水温 25 °C、洗濯物量 2.6 kg、適正洗剤使用量で洗濯を行う場合を想定している。

評価方法

家庭洗濯のプロセスは物理量(重量)依存性の高いプロセスのため重量比例案分することとする。

・家庭洗濯 1 回あたりの CO<sub>2</sub> 排出量算定式

$$y(\text{CO}_2 \text{ 排出量:kg- CO}_2) = 0.0385 \times \chi(\text{評価製品重量:kg}) + 0.003$$

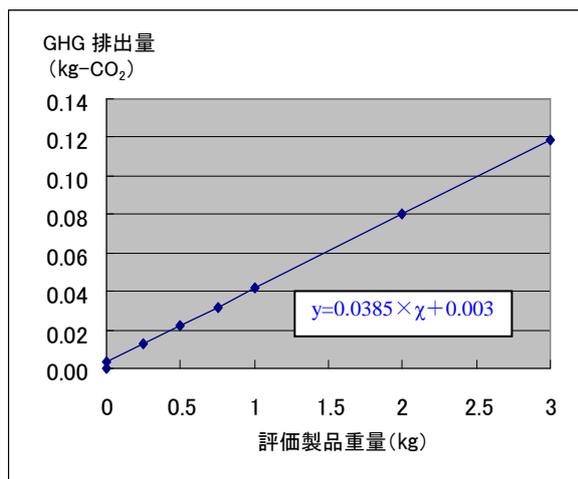


図 3-家庭洗濯 1 回のGHG 排出量

評価製品重量(kg)	GHG 排出量(kg- CO <sub>2</sub> )/洗濯 1 回
0	0
0.25	0.0126
0.5	0.0223
0.75	0.0319
1	0.0415
2	0.08
3	0.1185

表 4-家庭洗濯 1 回のGHG 排出量

なお、評価製品の取り扱い絵表示や着用企業等の規定により洗濯プロセスが変わる場合は、妥当性の検証を受けることを前提に、実際のプロセスに応じて検討することを可能とする。

C.3 アイロンモデル

家庭洗濯において、アイロン掛けを実施する場合は当該プロセスを検討することとする。ただし、ノンプレス加工製

品等のアイロン掛けが不要だと考えられる製品は、妥当性の検証を受けることを前提に当該プロセスを検討しなくてもよい。

評価方法

アイロン掛けプロセスの CO<sub>2</sub> 排出量は表面積に比例すると考え、ワイシャツ 1 枚のアイロン掛けの実測平均値をもとに表地の面積比例案分で算出することとする。

・アイロン 1 回あたりのGHG排出量算定式

$$y(\text{CO}_2 \text{ 排出量:kg-CO}_2) = 0.016 \times \chi (\text{※1})$$

※1  $\chi$  = 評価製品の表地有効幅 (m) × 要尺 (m) × 取り効率 ÷ 1.8

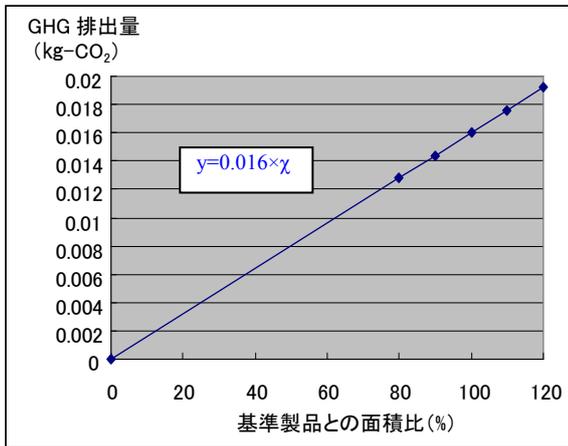


図4-アイロン1回のGHG排出量

基準の製品との面積比 (%)	GHG 排出量 (kg- CO <sub>2</sub> )
0	0
80	0.0128
90	0.0144
100	0.016
110	0.0176
120	0.0192

表5-アイロン1回のGHG排出量

参考文献

第 41 回洗浄に関するシンポジウム(2009. 10. 8)

「商業洗濯のライフサイクルアセスメント」共立女子短期大学山口准教授

附属書 D：各サイズの CO<sub>2</sub> 排出量算定方法（規定）

＜各サイズの CO<sub>2</sub> 排出量の算定方法＞

ユニフォームの CFP-PCR では、評価サイズは当該製品の標準体型用サイズと定めている。評価サイズ以外の各サイズの CO<sub>2</sub> 排出量は、評価サイズの CO<sub>2</sub> 排出量を基準に各サイズの製品重量比例計算で算定することを可能とする。

・算定式：

$$\text{他サイズの CO}_2 \text{ 排出量 (kg-CO}_2\text{)} = \frac{\text{評価サイズの CO}_2 \text{ 排出量 (kg-CO}_2\text{)} \times \text{他サイズの製品重量 (kg)}}{\text{評価サイズの製品重量 (kg)}}$$

【同一サイズ群について】

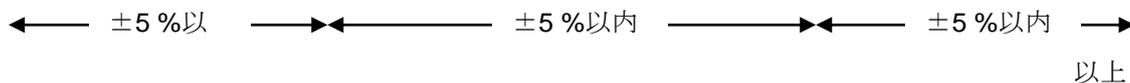
各サイズの CO<sub>2</sub> 排出量を重量比例で算定した後、評価サイズの CO<sub>2</sub> 排出量から 5 % 以内の差となるサイズは同一サイズ群として扱うことを可能とし、5 % を超える差となるサイズは評価サイズに最も近いサイズを基準に 5 % 以内毎に同一サイズ群として扱うことを可能とする。同一サイズ群における CO<sub>2</sub> 排出量の表示値は、評価サイズを含む同一サイズ群では評価サイズの値を使用し、評価サイズを含まない同一サイズ群においては最も高い値を使用することとする。

【算定例】

- ・評価サイズ：L サイズ
- ・評価サイズの CO<sub>2</sub> 排出量：10 kg-CO<sub>2</sub>
- ・サイズ展開：SS～4L の 7 サイズ展開
- ・各サイズの製品重量：下表の製品重量欄の通り。

各サイズの CFP 表示値は下表の下線の通り。

	SS	S	M	L (評価サイズ)	LL	3L	4L
製品重量 (kg)	0.44	0.46	0.48	<b>0.5</b>	0.52	0.53	0.55
CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	8.8	9.2	9.6	<b>10.0</b>	10.4	10.6	11
CFP 表示値	<u>9.2</u>		<u>10</u>			<u>11</u>	



[CFP-PCR 改訂履歴]

認定 PCR 番号	公表日	改訂内容
PA-AO-04	2013 年 10 月 18 日	CFP 試行事業より CFP プログラムにおけるルール、CFP-PCR 書式に対応するよう旧フォーマットから変更。